文化の白子

発行日　令和７年３月３１日
（会員版）　編集・発行　白子町文化協会

＜主な内容＞

・八坂神社扇垂木・・・巻頭
・生涯学習ﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙ・・2～4
・白子の偉人
　～栗原式牛馬鞍～・・・5
・研修視察報告・・・・・6
・サークル活動報告
　茶道サークル・・・6～7
　自然を守る会・・・・7
　文化財を守る会・・・8
・編集後記・・・・・・・8

扇垂木

町指定文化財（史跡）昭和五十五年三月一日指定
八坂神社の扇垂木
（管理者　中里上の台自治会）

八坂神社
中里 857

八坂神社（祭神素戔嗚の命）は、もと祇園神社といい、中里の篠崎五右衛門が勧請し、延宝年間（一六七三～八〇）の建立と伝えられている。建築材その他から見て八幡神社とほぼ同年代にできたものと推測される。

この社殿の特徴は、棰が扇を広げたような末広がりの構造の扇棰である。間口三間、奥行三間半、亜鉛板葺、寄棟造りの屋根裏に、棟から四方の軒下に放射線状の恰も扇骨のように、棰が施行されている。末広がりに、あるいは旭日の光芒のように優美な感じを与える。

隣の八幡神社入口の大蟇又とともに特徴のある宮建築である。

注　釈

・勧請～仏神の霊や像を寺社に新たに迎えて奉安すること。

参考資料

・白子町の文化財　白子町教育委員会　平成八年三月発行
・ふるさとの歴史～白子の群像～　千秋社　牧野　誠一　昭和六十二年二月二十日発行

白子町の文化財を守る会

片岡　幹男

活動の一端を紹介します。

「郷土学習会」では、毎月、会員が交替で講師となり、勉強会を開きます。時々、外部講師を招いています。本年度は、睦沢町立民俗資料館の学芸員山口文（あや）さんを招いて、一般の参加者も募集し、講演会を開催しました。

ＮＨＫ大河ドラマ「鎌倉殿の十三人」で佐藤浩市が演じた上総広常の伝説についての話です。

上総広常像

今回は、文化協会の会員に聴講の声かけをしたところ、四十名以上の参加者が集まり、盛況でした。

上総介（今の副知事）である広常の支配地は広く、長生・夷隅はもとより市原・君津にまで及んでいた。各地に広常ゆかりの物や伝説が残されています。

広常の実像がどうであったか、伝説や残された資料に基づく詳細な説明が講師よりあって、大河ドラマでの傲慢な広常の印象が好人物に思えてきたことは、面白く感じました。

山口学芸員による講演会

今後も、皆さんが参加できる機会をつくりたいと考えています。

さて、文化財を守る会では、毎年、町外の文化財巡りを実施しています。本年度は、市原市歴史博物館と上総国分尼寺を見学しました。

奈良・平安時代の上総国の国府（今の県庁）は、市原にあり、そこに、国分寺の七重塔や国分尼寺が建ち、とても繁栄していたという学芸員の説明でした。

上総国分尼寺

次に、市原市歴史民俗資料館では、市原の古代から現代までの歴史の常設展示と特別展の「はにわ展」を見ることができた。国立博物館の「はにわ展」でも見られない「むささび」の埴輪は、むささびの飛ぶ姿を形取っていて圧巻でした。

歴史に興味のある皆さんの文化財を守る会への参加を歓迎します。

（活動日時）毎月第三木曜日　十三時～十五時
（場所）青少年センター
（年会費）二千円

編集後記

文化の白子第四十号をお届け致します。原稿のご寄稿と写真・資料をご提供いただきました方々に感謝とお礼を申し上げます。

大河ドラマ「べらぼう」を見ながら、文化とは何かと考えました。たぶん「粋な人」と「野暮な人」とを分ける何かなのだと思います。

会員が増えて活動が盛んになって「粋な人」が町に増えるといいなと思います。

編集委員長　片岡　幹男
編集委員　育野　建男
〃　長谷川太江子
事務局　長島　正明

展示・出店部門

第３５回白子町生涯学習フェスティバル

○作品展示
令和７年３月６日（木）～９日（日）

○芸能発表
令和７年３月９日（日）

白写会

茶道サークル

俳画クラブ

白子絵手紙の会

染色サークル

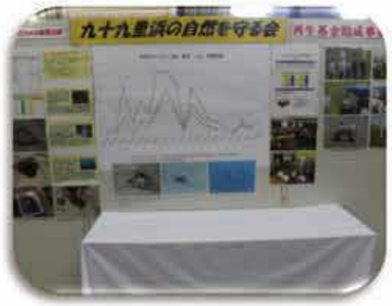
しらこ俳句会

白子函凧保存会

白子天文サークル

白子町歩こう会

白子町の文化財を守る会



九十九里浜の自然を守る会

芸能部門

太極拳竹友会

太鼓衆　楽

お琴サークルつむぎ

白子フォークダンスサークル

トヨコ　カーホナ　オレ

あざみの会

コーラスサークルコールヴィント

オカリナサークル

撮影協力：白写会

特別公演会

第一部「味のあるシニアアンサンブルコンサート」

茂原シニアアンサンブル昴

シニアアンサンブル昴

（プロフィール）

☆　茂原シニアアンサンブルは、二〇二〇年八月にシニアアンサンブル千葉県連盟十三番目の楽団として誕生しました。概ね五十才以上のシニアが活動しています。指導は、東京藝術大学出身で音楽経験が豊富な横林先生です。

『昴』は、茂原七夕まつりの星をイメージして名付けました。演奏曲のジャンルは幅広く、楽器編成もさまざまです。団員の楽器経験は、長短がありますが、人生経験を積んだ味のあるアンサンブルをめざして練習に励んでいます。

シニアアンサンブル昴

現在の茂原シニアアンサンブルは、バイオリン、チェロ、コントラバス、マンドリン、ギター、ベース、フルート、トランペット、クラリネット、サックス、ピアノ、キーボード、ドラムスの編成。メンバーには、初心者もいて、難しい部分は弾いているふりをしてみたり？

それも、気軽に参加できるシニアアンサンブルの魅力です。

また、クラシックだけでなく、違うジャンルの曲も弾いたり、歌も入ったりと、楽しい演奏が盛りだくさんでした。

（曲　目）

・ウィーンはいつもウィーン
・瑠璃色の地球
・ジャパニーズポップスメドレー
・昴　他2曲

第二部「手と手を取り合いシャルウィダンス」

岡澤節子ペア・矢澤俊夫、内山久郎・鈴木いづみペア（社交ダンス）

岡澤節子・矢澤俊夫ペア

（プロフィール）

☆　千葉県銚子市出身。結婚以来、５２年茂原市に在住。

三十六歳の時に、社交ダンスをはじめ、最初にメダルテスト（基本）、次に、競技ダンス（技術とスピード）、最後に、デモストレーション（表現力）を養う。

大網の石塚喬先生（競技ダンス）、折山先生（スタンダード）、小日山先生（スタンダードとラテン）、東海林先生（ラテン専科）を師事。

現在は、日本ダンススポーツ連盟（JDSF）に所属し、公認指導員として、各サークルで指導。また、JDSFの南支部の理事を務めている。

今年度は、茂原市民体育館において、第十七回競技ダンス及びパーティーの実行委員長として活躍。

社交ダンスは、男女が手をつなぐことにより、年齢、性別を越えて、気軽に楽しめるスポーツ。リズムに合わせて、身体を動かすことにより、体力・技術の向上を図ることができ、痴呆防止にも効果大。大いに健康ダンスをして楽しみましょう！

フェスティバルでは、ダンス仲間の矢澤俊夫さんとペアを組み、さらに、内山久郎・鈴木いづみペアも加わり、華やかなステージを見せてくれました。

内山久郎・鈴木いずみペア

（演　目）

一．ワルツ・タンゴ
二．ルンバ・サンバ・ジャイブ

白子の偉人

～栗原式牛馬鞍～

栗原　泰

栗原式牛馬鞍

第二次世界大戦の戦雲漂う昭和十年代は、農村では食糧増産に、夜を日についで急がねばならなかった。人手は不足し、肥料の配給も減り、ガソリンなど油類は軍需用にさえ不足して松根油をとる始末に追込まれていった。

また、水田の耕作には、最も労力を必要とし、農具は、能率の上がらない「万能」が使われていたので、優れた農具の開発は緊要不可欠のものであった。

この時に従来の畜力利用の唐犁（からすき）法に改良を加えて耕作法に大きな革命をもたらしたのが、栗原式牛馬鞍である。この鞍が、白子町福島出身の**栗原泰**（明治三十二年生れ～昭和五十一年没）が発明したものである。

そもそも白子町近隣で牛馬利用の唐犁（からすき）の耕作法が盛んになったのは、昭和初年ごろ、朝鮮牛の内地輸入（当時、朝鮮半島は日本の支配下にあった）が多くなってからである。朝鮮牛は、和牛に比べ、温和で使いやすく、安価であったので最初は多く使われたが、やがて能率の良い馬耕法が普及していった。しかし、馬耕法は牛耕法よりも高度な技術が必要とされた。

栗原式牛馬鞍

栗原氏のけん引具発明の動機は、行詰った農業経営を畜力により省力化し、増産をねらったことであるが、栗原氏が馬の調教に熟練していたことと、精農家であったことなどと相まって、当時全国的に普及していた磯部式（熊本）、高北式（三重）、松山式（長野）などの諸氏と競争の結果、圧倒的にその優秀性を認められ、ついに千葉県に栗原式ありと名声をとどろかせた。

昭和八年には、栗原式牛馬鞍の新案特許を出願して、新案登録一七九六四号ほか三種を得た。この新案特許は、牛馬が重量物を引くとき、体のいかなる部位に最も力が作用し、いかなる角度で綱を引くことが最も力学的に効果があるかにポイントをおき、これを具体化するため、引綱をつける金具の位置を自由に調節できるようにし、引綱の引く角度を示すメーター器をつけたことである。

メーター器

栗原氏は、「馬の力はほぼ肩甲骨の下位三分の一のところに集まるから、引綱はこの位置から水平線約二十五度の角度を以って適度とする」の力の平行四辺形の理論の研究に入った後、十数年の苦心の結果、この原理の正しいことを確かめることができた。この原理は陸軍省にも採用されて、大砲等をけん引する軍馬に利用された。昭和十一年、彼は農林省から、宮城・福島県など東北六県役馬利用の実地指導員を嘱託されたのをはじめとして、九州の熊本地方、長野、静岡の各県並びに千葉県内では香取郡、安房郡にも派遣されて指導に努めた。

一方、栗原氏は、鞍製造工場を茂原に置いたが、数千の注文殺到のため、生産が間に合わず、東京亀戸の森大八という人と提携して製造工場を営んだが資金不足のため、昭和十七年、香取郡の小林週蔵にその権利を移譲した。

栗原氏は昭和十六年四月、馬事功労者として、興亜馬事大会名誉会長東条英機、農林大臣石黒忠篤から表彰されたほか、多くの表彰に輝いた。

（参考資料）

・ふるさとの歴史　白子の群像
昭和六十二年二月十日発行
著者　牧野誠一

研修視察に参加して

赤坂迎賓館・ＮＨＫ放送博物館

研修委員長　猿田　勇

寒冷の十二月十三日、文化協会加盟の文化・芸能の各サークルの代表者三十名が生涯学習バスにて視察地の東京赤坂に向かいました。

赤坂迎賓館

最初の目的地「迎賓館赤坂離宮」は、明治四十二(1909)年、東宮御所として誕生した日本で唯一のネオ・バロック様式の西洋宮殿です。戦後は、国に移管され昭和四十九（1974）年に迎賓館として蘇り、世界各国からの賓客をお迎えする外交の舞台となっています。平成二十一（2009）年に国宝に指定されました。

扉を開けると、そこは夢のようなきらびやかな世界！食事を楽しむ晩餐会の部屋「花鳥の間」、霊長が見守るラウンジ「菜鸞の間」、一番格式の高い賓客のサロン「朝日の間」、華やかな舞踏室「羽衣の間」など、世界中の芸術家や職人の粋が見事に調和した内装は圧倒されました。主庭の噴水や中央扉の正面上部に金色の菊の紋章が施された正門も印象的でした。

楠公レストハウス

次の視察先は、愛宕神社の隣のＮＨＫ放送博物館。百年かけて発展してきた日本の放送、ラジオからテレビへ、さらに衛星放送やハイビジョン、そしてデジタル放送へと大きく進歩してきた歴史が膨大な資料を基に学る博物館です。

NHK 放送博物館

終戦時の玉音放送、日本初の五輪映像、大河ドラマ「赤穂浪士」、朝ドラ「おしん」、子供向け「ひょっこりひょうたん島」など、歴史的な音源や、自身の人生にも関わってきた資料映像に、改めて感動を新たにしました。

このような貴重な体験が出来ましたこと、改めてお礼申し上げます。これからも多くの皆さに感動をお届けできる研修視察を期待して居ります。

サークル活動報告

茶道サークル

片岡　信子

茶道サークルでは、今年度、子ども茶道教室を行いました。

挨拶の仕方からはじまり、部屋の入り方、畳の歩き方、軸や花の拝見、道具の説明、お菓子の食べ方（お菓子は評判が良かった）、お茶の点て方、飲み方等、二人一組になってお茶を点て合いました。子どもに、正座は大変だったと思いますが、どの子もよく話を聞いてくれて、大変よくできました。

軸をめでる

今回は、親子での参加もありましたが、これを機会に「日本の伝統文化の茶道」に少しでも関心を持ってくれたらいいと思います。

反省点は、いろいろありますが、怪我もなく二回無事に終了して、ホッとしています。

お茶を点てる

茶道サークルでは、会員を募集しています。茶道というと作法がむずかしいと思っている方も多と思いますが、一度、体験にいらしてください。その際は、準備の都合上、事前にご連絡をいただけると、ありがたいです。

「日常を離れ、お茶とお菓子で、優雅な時間を過ごしましょう!!」ご連絡お待ちしています。

（活動日時）第二・四水曜日
　　午後一時半～
（場所）青少年センター茶室
（会費）月千円
（連絡先）生涯学習課
　　三三－二一四四

九十九里浜の自然を守る会

猿田　勇

私たち「九十九里浜の自然を守る会」の活動内容をご紹介いたします。白子町の海岸砂丘部には、希少植物のハマボウフウやハマヒルガオなどの群生地があり、絶滅が心配されているコアジサシの繁殖地でもあります。同じく絶滅危惧種に指定されているアカウミガメの上陸・産卵の北限ともされております。

ウミガメの孵化

このように、自然あふれる九十九里浜の自然環境を保護し、後世に伝えたく、かけがえのない白子の自然環境を保全するボランティア団体「九十九里浜の自然を守る会」が平成十一(1999)年に設立されました。事務局は、白子町役場環境課です。

会員は、白子ライオンズクラブ、建設業界、白子町温泉ホテル協同組合、町職員、町内や町外の一般の方々など様々な業種の皆様が会員に参加しており、令和六年四月時点の会員数は、五十三名です。

主な活動内容は、①千葉県条例に基づく九十九里浜の車両等乗入れ規制の啓発活動②定期的な海岸、砂丘地域内の海岸環境美化活動③希少種コアジサシの巣営保全監視活動④希少海浜植物の保護・保全活動⑤絶滅危惧種アカウミガメの上陸・産卵・孵化等の確認調査及び保護活動⑥地元小学生向けの環境保護の総合学習授業等です。

自走式ドローン

特に、アカウミガメの産卵保護活動では、産卵時期の５月末から８月末まで、会員が毎朝早朝、白子町の海岸線六ｋｍを手分けしてゴミ拾いしながらカメの産卵上陸が無いかパトロールしています（通称：亀パト）。

キャタピラー状の上陸痕を見つけると、産卵しているか確認し、卵が見つかると産卵場所の周囲を杭で囲み、保護看板を立て、孵化迄見守ります。

白子海岸でのアカウミガメの産卵上陸回数は、平成二十五(2013)年の六十三箇所をピークに年々減少しており、今年度は二箇所のみでした。海水温の上昇や海岸線の浸食など地球温暖化の影響が大きいかと思いますが、我々が出来る親亀が安心して上陸できる海岸線の清掃活動などは今後も継続したいと考えています。

また、近年会員の平均年齢も上昇して来ており、亀パトがかなりの負担となってきていますので、今年度は自走式のドローンを用いた無人亀パトの実証実験を行いました。実験費用は百万円ほどかかりましたが、クラウドファンディングで調達でき、実証実験は成功しました。まだまだ実用化には壁が有りますが、実用化に向けた活動に注力する所存です。

入会希望の方が居られましたら、左記までご連絡下さい。お待ちして居ります。

九十九里浜の自然を守る会
会長　猿田勇☎080-5042-7956